

増補 幸若舞・曲舞年表稿

市古貞次

- 一 本稿は室町時代から江戸初期（慶長末年）までの間に舞（幸若・大頭等）、曲舞を演じたところを主として、年代順に排列したものである。
- 一 資料は主としてこの時代の日記を用い、間々戦記の類を参考として掲げた。句読点・濁点は筆者の付したものである。
- 一 昭和九年に調査した資料をもととし、これに補訂を加えて、昭和四十二年五月、「日本女子大学国語国文学論究」に「幸若舞・曲舞年表稿」として掲げたが、本稿はこれにさらに増補訂正を加えたものである。作製に当って大日本史料・幸若舞曲集、（笹野堅）、能楽研究（能勢朝次）、日本芸能史（岩橋小弥太）その他の諸書に負うところが少ないことをお断りしておく。

康永二年

1 十月廿五日 今朝參四条道場、聖（作阿）見參、有舞之。

（祇園社家記録）

觀応元年

2 三月十八日 向西大路大納言許見參、又一茶領狀、掃部曲舞。

（祇園社家記録）

応永十六年

3 三月十二日 裏松鞍馬寺參詣、同道人々……次加賀之女舞二人アリ云々。小袖五重又料足五千、舞女為賞翫与之云々。（教言卿記）

応永二十三年

4 三月廿五日 抑手ク、ツ參、猿染仕。小童一人天骨者也。リウゴヲ舞ス。又師子ヲ舞、又クセ舞ヲ舞、種々施芸能。祿物種々賜之。

（看聞御記）

應永三十年

5 十月一日 左一令同道、六角堂クセ舞見物之。与八男也。近江河内（美濃カ）義乃八幡声聞衆等京上、如此舞。舞所々構棧敷、人々見物之。亭子院其外楊梅路、珍皇寺、矢田寺、大堂、又此寺於国々舞々連日有之。雖然予今日始見物聞之畢。五百或三百文借之。只芝居物出人別一疋宛。入也。

（康富記）

〔参考〕（年月未詳）後小松院、与八と申す九世舞をめされて御前にて舞せられけり。三四度聞召されて、乱世の声ありと

て、後終に御前へめされず。其の後仰せのごとく赤松が乱ありけり。よくぞいひけると御まんありけると、畠山の阿州物語あり。（東野州聞書、宝徳元年閏十月の条）

応永三十四年

6 五月十日 於妙法院久世舞見物。此間山上山務法印弘然坊二召置云々。自其妙法院へ吹拳、撰州野瀬郷声聞云々。児如法堪能者也。去々年於清水寺六角堂勸進久世舞沙汰云々。雨中間以別儀召上中門了。児ハ水干大口立烏帽子ニテ舞之。男ハ直垂大口也。如法歴々体也。

（満濟准后日記）

7 五月十一日 於妙法院久世舞見物云々。今日ハ理性院水本金剛院等面々張行也。

（同右）

永享四年

8 六月十五日 抑於稻荷御旅所、此間くせ舞児有勸進。於即成院去々年舞児云々。猶上手ニ成、万人群集云々。前宰相、長資朝臣、重賢、梵祐、承泉等今日見物、言語道断殊勝之由申。

（看聞御記）

永享七年

9 〔参考〕正月十八日 松拍小犬參、局留守之間追出之処、御掃可待申之由申て晚景參入、猿染七番仕、堪能之間其興不少。

（同右）

永享十年

10 二月十六日 くせ舞小犬參。頻申之間令舞児。其芸いたいけ

（同右）

（同右）

（同右）

（同右）

（同右）

幸若舞・曲舞年表稿（市古）

也。三番舞。太刀一折紙給。男共御盃申沙汰。不慮與遊也。

（同右）

嘉吉二年

11 五月八日 当時諸人令弄翫くせ舞あり、号之二人舞。依家僕

等勸進今日於南庭舞之。音曲舞姿尤有感激。勝宝院僧正、右

馬頭父子入來。持明院羽林以下家僕等在席。舞了及酒宴、召

彼舞手等於予前畢。其與不少者也。 （管見記）

12 五月廿二日 先日二人舞推參。施為尤曲極了。勝宝院僧正、

橋本羽林典厩等入來。見聞衆滿庭前。 （同右）

13 五月廿四日 幸若大夫称先日礼來。……仍又有酒宴。 （同右）

文安四年

14 四月三十日 鳴振來舞了、彦五郎云々、児在之。

15 五月一日 鳴振舞之了。 （經覚私要鈔）

16 五月二日 鳴振於古市城舞之云々。 （同右）

17 五月五日 方衆共鳴振舞之、師子以下兒舞之間、一族等上下

懸之畢 （同右）

文安五年

18 正月廿一日 依招引向上池軒民部卿第。朝滄有之。佐々木鞍

智、清將監、陰陽權助、淨居庵參会。田染珍阿歌之。幸若同

來歌之。 （康富記）

宝徳二年

19 二月十八日 越前田中香若大夫參室町殿、久世舞々之云々。

宝徳三年

20 三月七日 千本炎魔堂越前香若大夫舞曲舞。不慮被誘引入聞

了。 （同右）

享徳元年

21 四月十五日 彼二人舞自今日内山寺堂ニテ勸進舞之云々、衆

人定令群集歟。 （經覚私要鈔）

享徳二年

22 二月十六日 今日於播州館兒鳴振舞之。 （同右）

康正三年（長祿元年）

23 四月十七日 於善勝寺ナリ振梅若大夫勸進舞之云々。 （同右）

長祿二年

24 九月廿六日 一昨日ヨリ於新淨土寺久世舞在之、風呂勸進云

々。申入安内了云々。 （尋尊大僧正記）

長祿三年

25 〔参考〕此事山名金吾本意ナキ事ニ思ハレ、石見六郎左衛門

ガ所為也トニクミ、或時三条殿ニテ幸若舞ノアリシニ貴賤群

集シ、ソノ帰ルサニ山名郎從ヲ遣シ辻切ノ様ニ切セケル。 （嘉吉記）

長祿四年

26 三月十五日 於河東五葉辻子ト云所ニ有曲舞。向棧敷……三

番舞了。……殊勝く。 （經覚私要鈔）

27 三月十六日 今日又出河東聞伴舞了。今日結句ニ三人同事舞

之、丁聞者共扇ヲナゲ舉。三人内一人若俗、所妹甚優美也。
衆人所愛依之歟。

28 三月十七日 依甚雨件舞無之云々。 (同右)

29 三月廿二日 河東舞今日事終了云々。 (同右)

寬正三年

30 (参考) 八月十九日 川上声聞之内二蘆次郎三郎、同久世舞

猶松丸兩人捧晤文、於向後者如先例人夫役事可致其沙汰之旨
申入之間、放火事免了。 (尋尊大僧正記)

寬正四年

31 三月十三日 昨日久世舞在之、六条彦五郎云々。 (同右)

32 三月十六日 先日久世舞又參、百疋給之了。 (同右)

寬正五年

33 六月十五日 元興寺金堂勸進用久世舞、始之云々。 (同右)

34 八月十一日 久世舞在之。祿百疋下行之、五十疋ハ候人出之、
五十疋予仰付之、一獻事仰付之。 (同右)

文正元年

35 四月十六日 是日於千本棧敷殿有御見物女曲舞。余同、女中

亦被見物。及晚帰宅。抑件女曲舞自去十日七日於千本舞勸進
云々。彼女生年十九云々。容顏尤美麗、凡超過諸人、希代事

也。舞拍子言語道斷、奇妙之至也。見物雜人四五千人計云々。
美濃國人云々。先男舞露弘、次十四五計兒舞一番、次女一番。

舞了。児与女立合舞之。座者十余人計也。 (後法興院記)

応仁二年

36 二月廿七日 高台寺辺京ノ若大夫卜申声聞曲舞。

文明元年 (応仁三年) (經覚私要鈔)

37 五月廿一日 先日於不退寺久世舞ヲ、ツ在之。一乘院東北院

淨法院修南院東門院等被出。祿物一乘院沙汰、一獻等出世々
間沙汰云々。 (尋尊大僧正記)

文明三年

38 八月五日 福寺勸進久世舞在之。昨日より始之。久世舞座卜

号者五人、今度追加マデ六人在之。此衆共一向不罷出者也。

五ヶ所十座之満座悉以令出仕、他国之久世舞卜座列ス。五人
与惣衆相論子細在之故也。先度為門跡雖給書下於五人衆中掠

申入給之故、五ヶ所芝辻惣衆子細ヲ歎申入之間、且申段尤歎。
無所糺明。所詮任有限旨、如先規為惣衆可沙汰旨加下知了。

然上者先日書下ハ一向掠申入之間、不可立用之由各加下知
了。此御下知以後、彼五人衆共、於子守社可勸進之沙汰之由

支度之處、為惣衆押留畢。五人衆等不及是非、今度ハ又為惣
衆於福寺取立之。剩彼五人衆共不如此列者也。旁以五人衆掠

子細在之哉。抑今日炭釜息僧般若寺文殊院坂上息源松房參
申。為五人衆方子細ヲ歎申入。此題目成下様如上件。於門跡

者不可取上沙汰、可申所存子細在之者、南郷北郷之声聞二可
下知哉之由仰了。只今申狀ハ福寺之舞ヲ可押留所存歟。誠於

于今者五人衆失面目者也。舞手号若大夫畢。

(尋尊大僧正記)

39 八月六日 福寺舞為見物随心院殿御出云々。 (同右)

文明四年

40 五月二日 於吐田郷、近日久世舞勸進之云々。自興憲得業方

申付云々。就其去年木辻子之四郎三郎与南北之惣唱門相論事
在之。其故ハ久世舞人数事、以書被治定之処、惣唱門申入趣
ハ人数事更以不定事也。御書下可被破之云々。

（同右）

41 閏五月二日 於元興寺久世舞勸進在之云々。七ケ日。

（同右）

42 六月三日 自一昨日福寺久世舞在之。児五人舞之云々。

（同右）

43 六月九日 福寺舞、今日結之畢。

（同右）

44 七月四日 陽明大納言殿、鷹司内府、一条院殿同道、渡御於
成就院。久世舞有之。祿物予下行。

（同右）

45 七月五日 於成就院久世舞。清賢、専実、狝舞、泰弘、光秀
申沙汰也。

（同右）

46 正月十二日 千秋万歳鶴亀等於庭上舞、催其興者也。

（実隆公記）

47 四月三日 今日ウタイナシ。……内者共トキククセマイア
リ。杉原サウカアリ。事外ノホンソウナリ。

（言国卿記）

文明八年

48 三月一日 御階花サカリノ間、コイヌの中ヨリ上間、メサレ
ウタハセラルベキ由アル間、装束著参内了。……予コイヌニ

扇ヲ遣也。……若宮御方御服ヲ被下也。臈而キテマイ了。

（同右）

49 三月六日 昼間小犬於庭上歌舞、有興。

（実隆公記）

○コイヌ座共五人参。御台御袖ヲ被下也。

（言国卿記）

文明九年

50 閏正月十二日 入夜尼真禪 田遊女 候賢子。密々曲舞等有、逸
興。

（実隆公記）

○しんぜいあなたにてうたふ。くるしからずはとて、めんだ
うのはしまでまいりて、うたいまいあそぶ。

（御湯殿の上の日記）

51 閏正月廿日 入夜著束帯参内。今夜尼真禪密々於庇有曲舞。
小盃酌有興。

（実隆公記）

○くわせう寺の御所らい月に御とくどあるべしとて、いれま
いらせられて、しんぜんめして、くせまるうたわせらるゝ。

（御湯殿の上の日記）

52 五月十三日 唱聞道ヲ遁ハ一切唱聞之沙汰条々、陰陽師金口
曆星宮久世舞益彼岸経毗沙門経等芸能、於彼面々者可停止
也。

（尋尊大僧正記）

53 五月廿八日 元興寺久世舞勸進自昨日在之云々。於大安寺咒
師勸進云々。

（同右）

54 十月一日 二人舞八郎九郎来。

（十輪院内府記）

文明十一年

55 四月二日 去月廿六日於一乘院久世舞在之。東北院以下良家
興行。各百疋持参云々。

（尋尊大僧正記）

56 五月七日 自昨日於元興寺久世舞有之云々。

（同右）

57 五月廿日 黄昏律院坊主隆円上人来臨。勸進舞天氣能候者、
好

自明日可始候、棧敷一間致用意、必可御見物云々。

(晴富宿禰記)

58 五月廿三日

於地藏堂東庭八角堂与本堂
間有舞台

僻舞越前國幸若大夫
有若俗自

今日始之。律院隆円上人発起、為律院修理也云々。細河弥

九郎政之讚岐
守護迷心于若衆之間、構棧敷見物、此棧敷与楽屋相並云々

堂東局東面也、弥九郎今日見物、舞之若衆令同與向棧敷。帰路同

前云々。(同右)

59 五月廿六日 地藏堂東庭勸進舞今日又在之。柏藏主、龜侍者

等来之、見舞云々。(同右)

60 五月廿七日 通玄寺舞見物棧敷事被仰之間申付了。(同右)

61 五月廿八日 カ日舞女房衆看聞之。(同右)

62 六月十一日 於福田院久世舞勸進始之。少別当発志院沙汰

也。(尋尊大僧正記)

63 七月十九日 於元興寺可有久世舞之由、必定云々。内々自衆

中方不可然旨申送之間、略之畢。(同右)

文明十二年

64 四月廿四日 於綱道場有久世舞。罷向聞之。(親長卿記)

65 四月廿五日 久世舞同前。及晚有鞠。(同右)

66 八月一日 南少路申云、近日近江国曲舞ノ大夫并兒上落仕、

於此辺所々被舞候。(東寺百合文書ち、東寺廿一口方評定引付)

文明十三年

67 正月十五日 千じゆ万ざいまいりてくせまるを申。

(御湯殿の上の日記)

68 正月十八日 一日のくせまる御かたの御所にてまわせられ

て、けふも をはしまして御らんせらる。(同右)

文明十四年

69 正月九日 おさなきくせまるまいる。まはせらるゝ、ろく

申。御さたのかたゝよりいづる。くわさんの院御れるに御

まいり。いつものごとく御たいめんのゝちくこんあり。まい

をもみせまいせられて宮の御かたの御しやくのときいだし

てまいらせらる。(御湯殿の上の日記)

文明十五年

70 二月廿九日 聞久世舞。次詣正法寺。(親長卿記)

71 三月十二日 当番参候。午二刻計也。曲舞参上、児舞好、容

不好。(十輪院内府記)

○くせまるまふ。ちご、おとこ、大こくつれてまいる。まわ

せらるゝ。御たちにおりがみたぶ。御てうしもいださるゝ。

72 三月十四日 一日のくせまるめす。上らふ、新大、二条殿、

御あちやゝよりとひをたぶ。(御湯殿の上の日記)

73 四月四日 元興寺吉祥堂旧損以外也。令勸進近日上聿事及其

沙汰云々。珍重事也。自朔日久世舞在之云々。(同右)

74 四月五日 まるゝのちごまいる。この月になるによりて、

ながはしのご庭にてうたふ。ならしまして御らむせらるゝ。

75 四月八日 一日のまるゝちごめして、ながはしへなる。

(御湯殿の上の日記)

76 四月十八日 わかみよりのぼりくせまらまいりたきよし、つよくのぞみまいらするによりて、ながはしへなりて、こ庭にてそとまはさるゝ。(同右)

77 四月廿二日 十輪院久世舞可有云々。自廿八日之由申。昨日床三脚申出了。(同右)

78 五月十五日 自去七日十輪院久世舞八日在之。今日結願。学侶・六方・衆中以下見物云々。(尋尊大僧正記)

79 五月十六日 於古市城久世舞在之。方・学侶・衆中・内者衆行向云々。(同右)

80 五月廿日 自昨日善勝寺之勸進久世舞、於西伝害初之。六方下知、祇園郷ニ茶屋之カザリ仰付之。大儀之沙汰也。(同右)

81 七月九日 有召之間参内。安禅寺殿大聖寺□等被進御盃。曲舞兒候庭上、有其興。御扇被下之。当□依仰古歌予染筆賜之了。(実隆公記)

○まろくのちごめしてうたふ。(御湯殿の上の日記)

82 十一月 千代大夫と申舞に三百疋、高わか馬一疋、翌日は御内方御すはうに舞申に二千疋。(伊達成宗上洛日記)

83 九月十九日 及晩参内……入夜於宮御方有曲舞。其興不淺。小男声色無比類。諸人驚目者也。(実隆公記)

84 正月十九日 宮の御かたへなしまいらせらるゝ。……まつだ

文明十七年

文明十七年

ゆふ、又べちの物を、わかしゆなどつれてまいりてくせまひあり。御ひしくと千秋万せいめでたし。(御湯殿の上の日記)

○午後参内。有久世舞。入夜退出。(親長卿記)

○伝聞、今日於官方有二人舞云々。(実隆公記)

85 正月廿三日 ふたりまいのわかしゆなど一日の御れるにまいる。つゝにまはせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

86 正月廿六日 ふしみ殿、御むろ、くはんじゆう寺殿、めうほう院殿、はんせうなど御申さたにてくせまらまふ。くじやくのまにてまふ。みなく御みせらるゝ。……まゐいてゝ又御三まにて□こんありて……。(同右)

87 三月七日 くせまら、ちび、おとこ三人まいる。(同右)

88 三月十六日 まづくせまらまはせられて。くれくよりあふぎはあはせらるゝ……くせまいのろくはくろき御所御所、この御所よりもつる。(同右)

○今日密々扇合御会□、二人舞又有其興。(実隆公記)

89 閏三月十一日 かうわかまはせらるゝ。あんぜん寺殿御かつじき、御所、れんき、はんせう御まいり。雨ふりいでゝ、にはかに又みなみむきにてあり。おとこたちもしこうあり。(御湯殿の上の日記)

○細雨下。依召参内。有久世舞。(親長卿記)

90 閏三月廿三日 かうわかまごのや□思ひいでにまひたきよし申てぬいる。まはせらるゝ。女中、かいさん、かんろ

90 閏三月廿三日

じ、みん部卿、□□ぎまち、まつのき……雨ふりいでて、まいさめてながはしにてあり。

(御湯殿の上の日記)

○雨下。依召参内。有久世舞。

(親長卿記)

91 六月十四日 源大納言、新宰相、権のすけなどめしてうたはせらるゝ。まいまい一人あり。

(御湯殿の上の日記)

文明十八年

92 正月十日 くるどにて三こんまいる。まつ一だゆふ御れいにまいりたるを、一ばんまはせらるゝとて、くるどにてあり。

(同右)

93 二月十一日 なら松といふくせまゐ、一ばん申たきよし大こく申。そとまわせらるゝ。たび物もなくてくこんばかりたぶ。

(同右)

文明十九年(長享元年)

94 三月廿六日 ゐ中くせまゐ御庭みまいらす。二ばんまいていづる。

(同右)

95 三月廿九日 別でんにながはしへなる。くせまゐまふ。これゆへ七の時分より行かうはて、御ねなりてくはん御なる。

(同右)

96 六月十一日 ゆきかずのあそのんのごうしきくせまひうたふよしきこしめしてうたはせらるゝ。

(同右)

97 六月十三日 向土岐第。招引故也。有一献、請番。先日人数等来会。クセ舞兒二人、男等舞之。酒宴深更帰宿了。

(長興宿禰記)

長享二年

98 正月二日 北畠千秋万歳入道来、作祝舞。

(蔭涼軒日録)

99 正月七日 北ばたけがたう千じゆ万ざの申。ちごつれてくせまゐまふ。

(御湯殿の上の日記)

100 正月十日 まつ一大夫くせまゐまふ。小御所にてあり。

(同右)

101 正月十五日 千じゆ万ざのまふ。いたくおもしろからぬによりはやくはつる。

(同右)

102 正月廿八日 別でんにながはしへなる。れきくとの申さた、くせまゐなどまふ。

(同右)

103 二月一日 藤中納言、江辺三位等来。聞曲舞。童形也。

(後法興院記)

104 二月五日 外様衆申沙汰、有二人舞。可参之由一昨日□□引間参候。

(実隆公記)

○今日外様人々一献申沙汰也。有久世舞。可祇候之由有仰。仍午剋許参内、及晩退出。

(親長卿記)

○昼時分先進通世。次参入……余以下群衆、兒二人舞也。

(十輪院内府記)

○こいぬが□□くせまゐまふ。□□をりかずたぶ。

(御湯殿の上の日記)

○禁裏外様衆今日申沙汰、クセマイ。本所御参候也。

(山科家礼記)

105 二月十三日 及晩有仰事、可有久世舞之由有仰。予申云、御一献之時久世舞ハ余シヅカニテ御座敷等以外無音、所詮一献申沙汰之間、チトワサクト御座可然歟。及晩参長橋局、条

々申定、仰久世舞事。如予申尤有其謂、他事可有御沙汰、何様十六日者可有延引、其趣各可申云々。可為来月二日云々。

(親長卿記)

106 二月廿一日 夜来俊一、弟子乘一兩人。置之茶礼間、平家、

癖舞、小歌尽之。有宴。

(蔭涼軒日録)

107 三月十九日 聖護院准后、景陽軒等被来。盃酌數巡後、有曲舞。

(後法興院記)

108 四月廿九日 此間於元興寺吉祥堂久世舞在之。今日雨降間、

児以下一座参仕申間、於障子上被舞之。

(政覚大僧正記)

109 七月廿三日 六方沙汰、於極楽坊、幸若大夫久世舞勸進可有之云々。自来廿五日云々。今日明日舞殿等立之云々。

(尋尊大僧正記)

110 七月廿六日 於極楽坊、幸若大夫舞有之。昨日より初之。古市取立也。学侶六方見物、雑人一向如無云々。

(同右) (政覚大僧正記にも見ゆ)

111 八月四日 極楽坊久世舞、至今日五ヶ日在之。連雨之間迷惑候。万ダラ堂之東之広縁自正面以北修学者座也。以南衆中座也。南ハシ一間浄名院以下之児見物之在所ニ相構云々。太子堂便宜之人々棧敷也。古市衆大略在之云々。修学者、衆中座之簾上下之役ハ中綱共云々。白袴風情異形也。祿物事甲乙人勸進錢之不足分自寺門可給之云々。

(尋尊大僧正記)

112 八月五日 信承相語、久世舞祿物、学侶千疋、衆中五百疋云々。

(同右)

113 八月七日 幸若大夫久世舞至今日五ヶ度在之。極楽坊三輩見

物了。

(大乘院日記目録)

114 八月十六日 久世舞児自去六月比、東林院部屋ニ祇候了。今日婦本国撰州、倉庄伝馬一疋給之。

(尋尊大僧正記) (政覚大僧正記にも見ゆ)

長享三年(延徳元年)

115 正月二日 千秋万歳如旧例作祝舞。

(蔭涼軒日録)

116 四月五日 去二日ヨリ福田院修理料、久世舞手ク、ツ可有之由申。雖然江州事ニ自古市止之了。可然事也。

(尋尊大僧正記)

117 五月十七日 しもかはら殿より上らふの御るす事にとて二色一かまいらします。くせまゐふとめしてながはしにてあり。

(御湯殿の上の日記)

118 九月十六日 自今日於今少路盛輪坊地、香若大夫勸進在之。

(北野社家日記)

119 九月十七日 当所舞勸進事ニ付テ社家奉行方ハ如此遺。於社家境内舞勸進事、諸家被官人等致張行候条、不可叶由……。

(同右)

120 九月十九日 あんぜん寺殿、れんき、はんせう、女中、ないくのおとこたち御てうし事ありて、八らう九らうにわかにめして夜に入てまはせらるゝ。

(御湯殿の上の日記)

121 九月廿三日 就当所舞、近衛殿様上臈御方御棧敷在之。

(北野社家日記)

122 十月九日 参内。……此間、越前幸若大夫上落、於千本有勸進。此舞被聞食度之様仰之間、勸修寺大納言先日所相触也。

……於孔雀間舞。出御朝餉間、公卿以下台盤所……秉燭事終退出。
(宣胤卿記)

○参内。有久世舞於禁中春三月如此之儀、是又近例也。今如此事。如何々々、莫言々々、外様人々一獻申沙汰也。

(親長卿記)

○今日外様衆申沙汰也……下官雖有召不参。有二舞云々。三春之外如此倡優禁制也。当年被破其制、如何々々、莫言々々。

(実隆公記)

○とさまの申さたにてかうわかまふ。いつもの人ずことくくあり。
(御湯殿の上の日記)

○禁裏外様御方之今日申御沙汰、カウワカマウ。本所御参候也。
(山科家礼記)

123 十一月三日 今日香若大夫勅進、永御寮上殿依所望為当坊塞
棧敷見聞在之。
(北野社家日記)

124 十二月十三日 剃頭赴禅昌院齋。……九世舞彦四郎在座、又
春童座之三郎亦座。皆唱歌作舞。及薄暮帰。
(蔭涼軒日記)

延徳二年

125 正月二日 盃将傾頃、龜太夫殿来、唱歌作舞。……河原備前
入道殿各携杖次来。……千秋万歳如旧例作祝舞、入道舞如先
規。
(蔭涼軒日記)

126 正月三日 如恒例千秋万歳来、於広庭舞之。
(北野社家日記)

127 八月一日 抑今日有女曲舞。青女内々為見物向新典侍局、一
桶携之了。……及晚参内。女曲舞見聞。於黒戸御鞠懸有此
事。諸人群(集)以外事也。女二人男一人舞之。女曲尤有興。
(実隆公記)

○夕かたの御かたの御いわあつねのごとし。ねうばうのくせ
まのおもしろきよしきこしめして、ふとまわせらるゝ。べち
しておもしろくはなし。
(御湯殿の上の日記)

延徳三年

128 正月二日 千秋万歳如旧例作祝舞、如先規入道作舞。
(蔭涼軒日記)

129 正月三日 千秋万歳如历年成祝言歌舞。
(北野社家日記)

130 正月四日 大こくがたう千じゆ万ざゐ申。いろくのまゐど
も申。
(御湯殿の上の日記)

131 正月六日 北はたけの千じゆ万ざゐまわせらるゝ。(同右)

132 二月十二日 九峯自游初軒帰云、……九声舞二番聴之。其後
内藤七郎有能、五番見之。一時盛会也。
(蔭涼軒日記)

133 四月十一日 元興寺勸進事、自衆中止之。此間連日在之。久
世舞至今日了。
(尋尊大僧正記)

134 六月廿日 若州九世舞用意之。
(蔭涼軒日記)

135 七月廿三日 於当坊盛輪院坊地、可有舞勸進、自飯尾加賀方
申候。
(北野社家日記)

136 七月廿六日 自飯加木村来而舞勸進庭事申。
(同右)

137 九月三日 若州之九世舞在座、唱致曲。
(蔭涼軒日記)

延徳四年(明応元年)
138 正月三日 千秋万歳来。如例成祝言歌舞。
(北野社家日記)

139 二月廿一日 くせるまちごわかしゆよくまふよし、きやうげ
んする物申。ながはしにてまわせらるゝ。しさゐなく御らん
ぜらるゝ。あふぎたぶ。をりがみもたぶ。

幸若舞・曲舞年表稿(市古)

140 三月二日 ちくくせまゐまわせらるゝに、ながはしへなりて
御ひしくなり。(御湯殿の上の日記)

(同右)

141 三月四日 はくのあちやくくくせまゐ申された。にわか
れども御かわらけの物どもあまたにて、もゝの枝に御さか月、
おさへ物、御てんじむなどにて、御たる三かまいる。

(同右)

142 三月五日 女中衆有花見事。有曲舞コウノ宮 舞最中、雅俊朝
臣、細河治部少輔、寿官等来。(後法興院記)

143 四月十四日 於吉祥堂前久世舞、此間連日在之。勸進云々。

自今日別座又初之云々。(尋尊大僧正記)

144 五月八日 かすがに今日よりくせまひ候。かうわかひこ四
郎。(山科家礼記)

145 七月十二日 くらき御所くの御さか月、三宮もなる。ちく
くせまゐ申。つれに七らうありてめしてうたふ。(御湯殿の上の日記)

明応二年

146 正月五日 今夜於法花堂曲。舞高声沙汰之。(北野社家日記)

147 正月廿四日 御かたの御所へなしまいらせらるゝ。……くせ
まゐまふ。(御湯殿の上の日記)

○〔勝仁親王方へ行幸〕三献之後クセ舞在之。(言国卿記)

148 三月五日 於香備宅、彦四郎九世舞有之、悦也被請往。

(蔭涼軒日録)

149 七月廿九日 くせまゐまいるにつきてまわせらるゝ。……た

けだまゐりきかせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

○御徒然ナルトテ御カ、リニテクセ舞マワセラル、也。……
舞暮々過了。(言国卿記)

明応三年

150 正月三日 千秋万歳如例年成歌舞、珍重々々。

(北野社家日記)

151 四月廿九日 あふみのいはだゆふがちごふたりめして、くせ
まゐまはせらるゝ。二百疋つかはさるゝ。

(御湯殿の上の日記)

152 六月九日 おさあい物どもあふみよりのぼりて、小御所の御
庭まゐいらせたきよし申てみせらるゝ。まゐまふよし申によ
りてまはせらるゝ。(同右)

明応四年

153 二月六日 宮の御かた御いであり。じん四郎にまわせらる
ゝ。(同右)

154 四月七日 今日退出之時、昼時分舞ヲマワセラルベキ間予ニ
ナグサミニ祇候シ可聞由、直ニ被仰。畏入由申畢。……昼時
分参内、御カ、リ向ニテニ舞マハセラル、也。十人余人数ア
リ、若衆共也。(言国卿記)

○はく申、くせまゐまわせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

155 五月二日 天王寺のくせまゐまはせらるゝ。(同右)

○於小御所有曲舞、々童嬋娟也。尤有興。一献及深更、事了
退出。(実隆公記)

明応五年

156 正月六日 北はたけの千ずまんざいまわせらるゝ。

(御湯殿の上の日記)

157 三月廿一日 此間於太后寺勸進久世舞在之。

(尊尊大僧正記)

158 四月九日 於西転害久世舞在之。戌亥方沙汰也。号般若寺勸進云々。造物在之、東大寺之七郷ニ申付云々。

(同右)

159 八月廿六日 はく申、かゞのくによりのぼるくせまゐ小御所にてまわせらるゝ。……ちかごろおもしろくおぼしめす。

(御湯殿の上の日記)

明応六年

160 三月廿二日 於太后寺勸進之久世舞在之。児舞云々。又於社頭法楽舞在之。此間於長谷寺舞手也。

(尊尊大僧正記)

161 四月十一日 小御所くせまゐふとあり。

(御湯殿の上の日記)

162 八月十一日 くせまゐまわせらるゝ。

(同右)

163 九月七日 有二人舞。可參之由有催之間、午下刻參内。於小御所有此事。幸若也。音曲神妙尤有興。内々衆少々祇候。

(実隆公記)

○九月六日 久しうまいらぬくせまゐまはせらるゝ。おもしろくおぼしめす。御ほんにかうばこたぶ。(九月七日条に「まゐけふなるに昨日にかく。うつゝなし」トアリ)

(御湯殿の上の日記)

164 九月十八日 二宮の御方御ちやうぎやう、またの御ほうらくの御れん歌あり。……はてゝかうわかにはまはせらるゝ。

(御湯殿の上の日記)

○事了及晩、□申沙汰、二人舞事在之。

(実隆公記)

明応七年

165 二月廿八日 巳下刻用意。着座トシテ花山院へ參。……カツラ舞マイ以下来。予事外沈酔、七過時分ニ中山同道罷歸了。

(言国卿記)

166 二月廿九日 摂州優者兩人来、演多田満仲幹奥州佐藤兄弟事。惠三百錢二百扇。

(鹿苑日録)

167 四月廿三日 浄土寺久世舞初之云々。

(尊尊大僧正記)

168 五月十三日 於浄土寺可有勸進猿樂之由支度之処、自六方相支之間延引旨坊主申之、道具共令返進之。先度久世舞如形得分在之云々。

(同右)

169 七月廿一日 かゞのくせまゐまふ。ちかごろおかしくおぼしめすなどの御さた。

(御湯殿の上の日記)

○今日クセ舞、親王御方御シヤウジンホドキトシテ、女中・伯二位御銚子事申間、予俄其由申付了。舞昼時分ヨリハジマル也。黒戸御座也。舞御カヽリ御庭ニテ□加州之舞マイト云々。……舞七番□在之。

(言国卿記)

170 八月十九日 たうせん物の御ふるまゐに、くせまゐまはせらるゝ。御所くことく御まいり。おとこたちもめす。

(御湯殿の上の日記)

○八時分、禁裏へ阿茶召具祇候也。久世舞在之。
男衆如常スノコニ候。……舞暮々ニハテ畢、予モ長橋局御酌之後退出畢。阿茶同之。

(言国卿記)

幸若舞・曲舞年表稿（市古）

○内裏有召、有久世舞、令參可見物云々。下寮即昼時分參仕、及晚頭退出。
（親長卿記）

○禁裏有久世舞、可參云々。服香草之間不參。
（実隆公記）

明応八年
171三月十七日 ひるのほどくせまゐ。そのうちだうしやうのうたゐあり。
（御湯殿の上の日記）

文龜二年
172三月廿一日 有曲舞也大夫八方、身大兒、女房一人共行、各大口水干。
（元長公記）

○參小御所御盃一献之後有舞。童形并女房之立合也。尤有其興。日没時分舞終了。
（後法興院記）

文龜三年
173十月二日 昨日八方といふ兒の曲舞を肖柏みたるよし聞をよびて……
（再昌草）

永正二年
174正月四日 千秋万歳參。於議定所御庭舞。予正親町侍從、与兩度召出アリ。
（忠富王記）

175二月廿六日 有二人舞云々。可參入之由雖有内々仰不參。
（実隆公記）

○久世舞アリ、依召祇候。
（忠富王記）

176三月十一日 自今日於朱雀院十王堂、勅進曲舞在之。布留郷若大夫。
（多聞院日記）

177五月五日 自今日吉祥堂勅進曲舞在之。国一大夫。（同右）
178十月一日 座頭一人來。地下者二人、久世舞。（忠富王記）

永正三年

179十月三日 くせまいをまはせらるゝ。まいくにみのくにより進上したる御たちを盆にすへられてたぶ也。

（後奈良天皇宸記、天文十三年条ノ内）
180十月十日 今日於長橋局庭有兩人舞云々。青女為見聞、向新大典侍局之処。

（実隆公記）

〔このほどきこえ候まいくこの御所にてまいまいらせたとて候ほどに、たゞいまふるまわせられ候御ことにて候。御かただんぎより御かへり候はゞ御まいり候へとおほせられ候事にて候。……又ひもじへも文にて申候はんずれ（まじ）とりみだして候ほどに御事づけに申候。ちとまいり候て御きゝ候へかし〕
（実隆公記、永正三年十月紙背文書）

永正六年
181四月十六日 於長橋局有二人舞。武家今夜御下姿於藤下有小盃酌云々。
（実隆公記）

182八月廿七日 今夕於禁中有二人舞。自越前上落為石山勅進口 香菊大夫云々。内々雖有召不參。
（同右）

183閏八月二日 今夕於禁中有二人舞曲。人々成群云々。青女内々參入。於記録所良御座藉聽聞云々。
（同右）

永正十四年
184閏十月廿五日 有曲舞之興。
（後法成寺尚通公記）

永正十六年
185二月廿一日 慈照寺來。曲舞小生召具。及夜二三番舞也。
（同右）

永正十七年

186 九月十二日 午前参内。有曲舞、女也。夕霧子 号朝霧年廿五六許也。

近比鬧事、各拭感涙了。(二水記)

○禁中有女舞。(実隆公記)

187 九月十八日 午時一兩輩令同道、曲舞。大夫 朝霧令見物了。在所千

本焰燬堂也。從今日始之。(二水記)

188 九月廿七日 午時行千本、令見物曲舞。(同右)

永正十八年

189 四月十九日 晚頭参内。有曲舞朝霧今日御沙汰也。(同右)

(後柏原天皇宸翰辰記ニ「女舞」トアリ)

大永三年

190 二月七日 午刻参内。有曲舞大夫俗呼謂太官、上京者也新大典侍殿

申沙汰也後聞清法印女房内々申付云々及数刻三更退出了。(二水記)

○禁中有二人舞。青女参入。(実隆公記)

191 八月二日 越前香若徒党云々。(二水記)

192 八月三日 禁中女中御頼事、有二人舞。実世朝臣参入。(実隆公記)

享祿二年

193 正月五日 きたばたけまいる。まいなどとしくくのやうにま

いまいらする。(御湯殿の上の日記)

194 四月十八日 宝鏡寺、純孝院、慈照寺令同道、曲舞構棧敷密

々見物。(後法成寺尚通公記)

享祿三年

195 正月五日 きたばたけまいる。まいなどまいてめでたし。

享祿四年 (御湯殿の上の日記)

196 正月五日 きたばたけまいりて千ず万ざい申。としくのご

とくまいなどまいりていつる。(同右)

天文二年

197 正月五日 八時分北畠之声聞師千秋万歳三人参候了。如例参

議定所御庭曲舞。盛長夢物語 頼朝都入等也七過時分退出候了。(言繼卿記)

○きたばたけまいりてとしくのごとくまはられ候てめでた

しく。(御湯殿の上の日記)

198 八月四日 勅進舞。大夫女 房朝霧兩三人同道にて罷向。大和守以下

各来了。(言繼卿記)

天文六年

199 正月五日 きたばたけ千秋万ざいまいる。まわせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

200 三月九日 久世舞のゆふぎり詭言、常楽等被執申候。(証如上人日記)

天文七年

201 正月五日 北ばたけまいる。としくのごとくまいなどまい

まいらする。(御湯殿の上の日記)

202 四月三日 道運下舞見物ニ出也。(親俊日記)

天文八年

203 正月四日 千ず万ざいまいりてまはせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

204 正月廿日 久世舞。もち 大夫木沢懸目とて来候間万疋遣之。

(御湯殿の上の日記)

205 二月四日 女中おとこ申さたにて大かしらにまいまはせらるゝ。
(証如上人日記)
(御湯殿の上の日記)

206 三月六日 大政所ニテタ霧大夫舞之、見物之。(親俊日記)

207 六月三日 加州山崎舞久世大夫先日のぼり候て法楽之儀望候間、午尅於堂頃舞之。舞果て飯可食之分也。(証如上人日記)

天文十年

208 五月十一日 久世舞之山崎彦太郎先日令上洛、法楽事相望之間、今日之日没九ノ時打之時被行。自其次間座敷ヲ誘て令舞之畢。さいはらひまで三番也。(同右)

天文十三年

209 七月十八日 於四条道場大頭カシラ舞候。(尊鎮親王御自記)

天文十四年

210 六月四日 次山本大頭藤井彦四郎三人曲舞築島舞了。次又一兵庫舞了。次たかだち舞候。はう飯有之。次十番切舞候。(言繼卿記)

天文十五年

211 三月九日 今日禁裡に山本大頭曲舞候了。……舞者張良、和田酒盛、夜討蘇我、所知入、多田満仲々々等也。(同右)
○ちおんゐんもんぜきよりの御申のぶんにてとて、申さたにて、大こくまいりてまわせられて、御さか月七こんまいる。もんぜき御所くなる。おとこたちしこうあり。ちかごろおもしろくおぼしめすとて、ちおんゐんにどんすなどたびて、しうちやくのよし申さるゝ。
(御湯殿の上の日記)

212 三月廿七日 女中申さたにて、大こくらにまわせらるゝ。
(御湯殿の上の日記)

天文十八年

213 正月五日 千ず万ざいまいりてまはせらるゝ。(同右)

日条ニ「北ばたけまいりて千ず万ざい申。これは五日の事也」

天文十九年

214 正月五日 北畠千秋万歳参候間、長松丸、阿子丸召具、九時分参内。……和多酒もり等舞了。
(言繼卿記)

天文二十年

215 正月五日 今日北畠之千秋万歳参。曲舞和田酒盛、次こし越、次ゆり若少等也。(同右)

○北ばたけまいりて、としまいのごとくまいらす。
(御湯殿の上の日記)

216 八月廿六日

大樹義輝公ヨリ上使有。又大友義鎮ヨリモ使者有ケレバ……日夜酒宴アリ。幸若流ノ舞ノ上手小太夫ニ志田鳥帽子折ナド舞セラレケレバ、上下聴聞ニ貪著シテ合戦ナドノ噂モナシ。
(陰徳太平記卷十九)

217 (参考)

越前ヨリ幸若太夫下向セシカバ義隆卿甚ダ賞飮シ給ヒ懸テ鳥帽子折ヲ所望有ケリ、太夫廂ノ間に於テ手拍子丁丁ト拍テ之ヲ舞ケルニ、聴聞ノ貴賤感慨ニ堪兼テ袖ヲ濡サヌハ無リケリ。
(陰徳太平記卷二十)

天文二十一年

218 正月五日 召具長松丸午時参内。北畠之千秋万歳参於孔雀間申之。曲舞三番了。
(言繼卿記)

天文二十二年

219 八月十八日 今夕桜町声聞師奈良松曲舞々之。二番大織冠
曾我十番勇舞之。
(言繼卿記)

天文二十三年

220 正月四日 禁裏千秋万歳に参。御近所之声聞師也五入
有之

○千秋万歳い大こくまいる。ゆうせうまいる。御あふざたぶ。
(御湯殿の上の日記)

221 正月五日 禁裏千秋万歳に午時に参。今日者北畠声聞師也。但自桜町参云々。予宮内卿以清早参、其残遅参也、四辻大納言

……等也。舞鞍馬常磐、吉盛、木曾願書等舞了。
(言繼卿記)

222 四月十一日 久世舞幸若大夫照護寺下也
六十近者也来。舞度之由内々望之。頼資頼資被間、即於亭合舞之。頼若太郎、たかだち、景清上口、

新曲、こしこえ以上五番也。座敷七人也。音曲面白相聞也。
……大夫二百足、同子悉皆脇
マズル百足、座者六人中二百足遣之。
(証如上人日記)

永祿二年

223 正月五日 禁裏千秋万歳、北畠声聞師如例年。儀定所御庭参。舞三四番舞了。
(言繼卿記)

224 三月四日 暮々御番ニ参。於御三間曲舞之本八嶋一番被読之。相番予茶々丸代
公遠朝臣父卿兩人也。
(同右)

225 八月十九日 入夜桜町之者兩人来。舞八嶋、土佐正俊、二番舞之。酒有之。
(同右)

226 九月 日 於焰魔堂童部舞二人勸進舞有之(嚴助大僧正記)

永祿三年

227 正月四日 禁裏千秋万歳に可参之由有之間午時参内。大黒五人、未刻参於議定所御庭、如例年申之。
(言繼卿記)

228 正月五日 自禁裏千秋万歳に可参之由有之間午時参。北畠五人参、如例年舞了。曲舞暫舞之。
(同右)

永祿六年

229 正月五日 午下刻参内。桜町之千秋万歳四人参。如例後に曲舞出鳥
折一番舞之。
(同右)

永祿七年

230 正月四日 千秋万歳参。歌曲如例云々。
(惟房公記)

231 正月五日 禁中千秋万歳参之、桜町唱門士云々。
(同右)

永祿八年

232 正月五日 禁裏千秋万歳に未刻参内。自桜町参。根本北畠也。如例議定所御庭被参之輩勸修寺一位……等也。曲舞張良、

宮根詣、烏帽子折、秀平、浜出等舞之。
(言繼卿記)

永祿九年

233 十二月中旬 越前より幸若舞大夫吉田へ罷下り廿日余逗留いたしけり。御城内満願寺と云御寺に舞台を仰付られ舞を両度御覽じ、元就公輝元公御両殿より御礼物千貫舞台に御積せ遣されけり。
(温故私記卷十)

永祿十年

234 正月五日 禁裏千秋万歳桜町午時参。如例議定所御庭舞二番鳥帽子折被参
あつもり之輩勸修寺一位……等也。
(言繼卿記)

235 四月六日 於近衛烏丸杉原跡勸進舞、自今日有之云々。越前

幸若舞・曲舞年表稿(市古)

香若大夫云々。

(同右)

236 八月廿四日 夜に入舞二番土佐正俊後討會我有之。里村と云物舞了。各

逗留也。

(同右)

永祿十一年

237 正月四日 禁裏千秋万歳四人祝言申之。次曲舞大織冠舞之。

午下刻参了。

(同右)

238 正月五日 午時禁裏千秋万歳松町四人参内。同於議定所御庭申

之。被参之輩中山前大納言…等也。祝言之後曲舞、和田酒

盛、次浜出少申之了。

(同右)

永祿十二年

239 三月廿五日 木津伊予守第三年由、曲舞御経後二有之由。

(二条宴乗記)

240 四月九日 やいとなぐさみに新曲まいをさうしに一ぺんよ

む。此本東条新兵衛尉まめやまの番千刻借給間番替刻返之候

処ニ其分にて置処ニ世上如此罷成候間、其分也。

(同右)

241 四月廿六日 御女衆舞聞被御出。

(同右)

242 四月廿七日 女房衆今日もごくらくばうの舞聞ニ御出。

(同右)

243 正月四日 禁裏千秋万歳に午時参内。…近所声聞師大黒

参。五人有之。於議定所御庭申。如例種々曲共舞等也。

(言経卿記)

244 七月五日 タカンゼキ子舞有、西御所へ参。二番舞つきし

ま、おさだ。雨やがてはるゝ。

(二条宴乗記)

245 七月六日 又舞有之。まんぢう。

(同右)

元龜二年

246 四月十七日 舞へ参。新十郎、兵按、善、寛円、虎松、春政

各参トテ参。食籠等用意。

(尋憲記)

247 四月廿三日 於若宮舞在之。陽教房同道聞。(多聞院日記)

248 九月一日 庚申ニ各待候。乗閑粥申付候。新十郎侍候。エチ

ゼン曲舞、御前ニテ申上候也。

(尋憲記)

元龜三年

249 閏正月廿七日 あすの御かたの御所のまいに御とりおきのし

ゆう、みなくめして御かい、うたいなどあり。

(御湯殿の上の日記)

250 閏正月廿八日 御かたの御所にて春きりといふ女ばうにみな

くおとこ、女中申さたにてまはせらるゝ。春きりとこの御

所よりなをつけらるゝ。もともいでたるとてくせんいづる。

…八時にまいのうちに地しんする。

(同右)

天正四年

251 正月四日 せんじゆまんざい大こく五人まいる。まいあり

おとこたちしこう。

(同右)

252 正月四日 従梅津千秋万歳、昨日依雨儀今日来。十七八人有

之、就知行如此。京之町所到舞、松之舞等申之。

(言経卿記)

○梅津ヨリ千秋万歳十八九人来了。則令舞了。(言経卿記)

253 正月廿八日 巳刻御方之御所へ行幸、各祇候。御盃十献参了。

諷、衆各烏帽子襖也。先曲舞二、次猿樂八番。(言繼卿記)
254 三月四日 むらゐなごとわかにはかに女ばうまいの事、くわんじ
ゆ寺大納言、大きまちして申す。御心ゑありと仰せらるゝ。

255 三月五日 あすのねうばうまいのぶたい、源さい相の中將ば
んにてしかせらるゝ。(御湯殿の上の日記)

256 三月六日 於禁中女房舞有之。江州北郡衆云々。白樂業筑前守以井里甲云々
脇ツレ等ハ

男兒云々。鼓打等烏帽子着五人有之。露松張良、所知入、高
館、伏見常警、十番伐、五番舞之。(言繼卿記)

禁中御懸ニテ女房舞參了。烏帽子頭五六人有之。張良ツイハラ
イナスノ与一、タカダチ、十番ぎり、伏見トキ□、アタカ等
也。御扇拝領了。(言經卿記)

ねうばい(ま)まひあり。宮の御かたくろき御所くゝなる。おとこ
たちみなくゝしこう。御さか月まいる。まいまいねうばうに
御あふぎたぶ。とし十八と申す。きたのこほりのものものと申
す。おやこむすめとまい申す。(御湯殿の上の日記)

天正五年

257 四月廿六日 むらゐきうあんして、ねうばう(ま)はいの事申す。
御心えのよしあり。(御湯殿の上の日記)

258 四月廿七日 ねうばうまい五ばんあり。なの事申す。玉子と
つけらるゝ。(同右)

259 四月廿八日 むらゐところくゝまいの事に、はくして御つか
いあり。かたじけなきよし申す。(同右)

天正六年

260 五月六日 岡崎城江越前幸若とて幸春太夫越候。わきおや也
小性年十也。 各国衆越候て聞候。舞二番、たかだち、十番ぎり也。

261 七月廿日 越前鶴賀舞々幸鶴大夫越候て舞候。(家忠日記)

262 十月十六日 東条舞罷越候て舞候。(同右)

天正七年

263 正月四日 大こく六人まいる。まいまう。(御湯殿の上の日記)

264 四月五日 むら井宮の御かたへ申てけふにはかに女ばうまい
あり。くろどのまへなり。御あふぎたぶ。……まいはひやう

ごのつきしま、わだざかもり、つぎのぶたゞのぶなり。おり
にて、みなくゝまいまいにもたぶ。(同右)

265 五月三日 京ノ大頭舞聞了。満仲、カマダ二番了。(多聞院日記)

266 六月晦日 越前よりも幸鶴大夫舞ニ越候。会下にまい候。し
だ、和田ざかもり、ゑぼしおり、以上三番有。(家忠日記)

267 七月一日 幸鶴越候て舞候。夜うちそが、八嶋、笛のまき。
又其後座敷にてくわんじんちやう有。以上四番。(同右)

268 七月二日 川かりニ越候。同名与五左衛門尉所ニ舞候。たい
しゆくわん、高だち、ふしみときわ、こしこへ、以上四番。(同右)

天正八年

269 二月一日 桜井舞々越候。ゑぼしおり、八島、くわんじんち
やう、以上三番。(同右)

幸若舞・曲舞年表稿（市古）

270 二月十三日 二条の右ふよりまいの事、十六日のよし申さるゝ。
（御湯殿の上の日記）

271 二月十五日 あすのまいに宮の御かた二条より夜なる。

272 二月十六日 けふ上らふより御申候まいあり。なはかう若といふわかしゆなり。……まいののち宮の御かた、御かはらの物、山しろといふ、しやみせんひかせらるゝ。
（同右）

273 二月廿五日 東条舞々越候。おひさがし、堀川夜うち、四国おち三番。
（家忠日記）

274 閏三月十三日 自去十一日於下御靈幸若八郎九郎舞之相談月読書了。曾我十番切、次切終。
（兼見卿記）

275 八月六日 幸鶴舞々越候。
（家忠日記）

276 八月七日 舞候。しだ、まきがり、堀河夜うち、以上三番。
（同右）

277 八月八日 会下へ参候。勘大夫越候て舞候。しづか、しこくおち、清重、以上三番。
（同右）

278 正月四日 大こくせんずまんざいまいる。女院の御事にことしはつゞみなしにまはせらるゝ。
（御湯殿の上の日記）

279 三月晦日 東条舞々越候。ゑぼしおり舞候。
（家忠日記）

280 四月十三日 舞々勘大夫越候。高だち、かまたり二番也。
（同右）

281 五月九日 桜井舞々越候而、夜打そが、くわんじんちやう、ゑぼしおり舞候。
（同右）

天正十年
282 二月十日 岡崎舞々勘大夫越候。ゑぼしおり、あつもり二番。
（家忠日記）

283 二月十一日 桜井舞々越候。まんぢう、次信。
（同右）

284 四月十一日 昨日十日ヨリ於村雲大ガシラ舞ヲマフ。群集云々。
（兼見卿記）

285 五月十九日 於安土惣見寺幸若大夫久世舞まひ申候。其次二丹波猿樂梅若大夫御能仕候。幸若ハ一段舞御感にて金十枚当座ニ被下之。梅若大夫御能わろく候て御機嫌はあしく御座候つれどもこれにも金十枚被下之。
（宇野主水日記）

○安土御山於惣見寺、幸若八郎九郎大夫に舞をまはせ、次之日は四座之内は不珍、丹波猿樂梅若大夫に能をさせ、家康公被召列候衆、今度道中辛勞を忘申様に見物させ申さるべき旨、上意に而御棧敷之内、近衛殿、信長公、家康公、穴山梅雪、長安、長雲、友閑、夕庵……初之舞者大職冠、二番田歌、舞よく出来候て御機嫌不斜。御能は翌日可被仰付と御詫候つるが、日高に舞過候に依て、其日梅若大夫御能仕候折節、御能不出来に見苦敷候て、梅若大夫被成御折檻御腹立不成大形。幸若八郎九郎大夫居申候額屋へ御使、菅屋玖右衛門、長谷川竹以両使忝も上意之趣、能之跡に而舞を仕候事、雖非本式御所望候間、今一番仕候へと被仰出候。此時和田カモリ醜を舞申候。又勝而出来、御機嫌直り爰に而森乱御使にて幸若大夫御前へ被召出、為御褒美黄金十枚被下。
（信長公記卷十五）

286 六月一日 朝宗久ニテ茶湯朝会。屋宗牛ニテ同断。晚ハ宮内

法印ニテ茶湯。其後幸若二舞ヲまはせ候。酒宴有之。

(宇野主水日記)

287 十一月廿一日 此日武庫、中書、忠棟宿へ入御被成也。終日

御酒宴也。鼓太鼓様々也。幸若与十郎一曲申候也。石原治部

右衛門尉狂言共申候。彼是種々之御慰也。(上井覚兼日記)

288 十二月十四日 忠棟有馬殿へ寄合たるべく候。会尺可申之由

候間、彼方へ参候。…御酒數篇参候。有馬殿持盃之時、幸

若与十郎一曲申候。(同右)

289 十二月廿五日 此晚於忠棟宿、義虎合也。…幸若与十郎舞

と申候て深更まで御酒宴也。(同右)

天正十一年

290 正月元日 幸若与十郎舞ども申候。是へも中紙持せ候。(同右)

291 正月四日 せんずまんざい大こく六人まいる。いつものごと

くきちやう所にてまいいらする。(御湯殿の上の日記)

292 正月五日 さくらまちのせんずまんざいまいりて、きちやう

所にてまいいらせ候。(同右)

293 正月五日 此晚於武庫様御寄合也。…深更まで御酒宴也。

幸若与十郎舞申候。折紙被下候也。(上井覚兼日記)

294 正月十日 此日義虎へ可参之由候間、我々参也。座躰客居忠

棟、拙者、本刑、主居義虎、経平、幸若与十郎也。(同右)

295 四月十五日 舞々勘大夫越候。たいしよくわん、いづみ合戦

舞候。(家忠日記)

296 四月廿三日 從佐土原織屋来候て舞など一二番申候。

(上井覚兼日記)

297 七月十一日 此日紫波洲城のごとく衆中など同道にて罷登

候。然処幸若弥左衛門尉父子来候。かり屋へ宿申付候。此晚

拙者宿へ召寄振舞候。御酒之刻一曲乍居申候。(同右)

298 七月十二日 此日御崎寺より幸若召烈可参之儀承候間参候。

朝食振舞也。其後一曲申候。先笛之巻、鎌足、太職官此等

也。舞過候て点心にて御酒致返参候。種々乱酒也。拙者前よ

り大夫へ三百疋遣候。(同右)

299 七月十三日 如常幸若、清武のごとく行べき由申候間、其分

候。打立候時分、拙者麓へ罷下候て青島へ召烈候。…其後

暇乞候て、幸若は清武のごとく行、宮崎衆中も直に被帰候。

(同右)

300 九月廿八日 ダイガシラ於禁裏舞フマヲ三番。(兼見卿記)

301 十月廿四日 此晚赤星殿、有馬殿舎弟、天草殿舎弟へ御酒振

舞申候。深更まで酒宴也。幸若与十郎来候て一曲共申候也。

(上井覚兼日記)

302 十月廿六日 如常此朝又太郎殿より忠棟、拙者可参之由候間

参候。…幸若与十郎一曲申候。石原など狂言共仕候也。

(同右)

天正十二年

303 二月五月 舞々勘大夫越候。(家忠日記)

304 二月十二日 桜井舞々越候。大しよくわん、夜打そが。

(同右)

305 十一月廿九日 幸若弥左衛門尉父子祇候て時々舞など也。

(上井覚兼日記)

幸若舞・曲舞年表稿（市古）

- 306 十二月三日 従夫阿多掃部助殿、幸若与十郎など同候候て、有川長門守殿へ礼申候。（同右）
- 307 十二月九日 宗泊と云者ニ二番舞々わせ慰候也。（同右）
- 天正十三年
- 308 二月一日 此夜幸若来候て舞候。深行まで慰候也。（同右）
- 309 二月十六日 幸若与左衛門尉祇候申候て一曲共申候。百疋折紙にて遣候。（同右）
- 310 九月十日 本刑、今春又次郎、石原治部右衛門尉、幸若与十郎、閑談にて御酒共也。（同右）
- 311 九月十六日 終日御酒宴共也。今春又次郎大鞍仕候。松大夫父子参候て舞共申候。幸若与十郎と舞共申候。石原治部右衛門尉狂言など仕候也。（同右）
- 312 九月十七日 此日於御宿、松大夫舞申候。みな鶴、裏野合戦二番舞候。勿論装束にて舞候也。（同右）
- 天正十四年
- 313 正月十五日 此日、秘書拙宿へ御出候。幸若在台候て一曲共申候。（上井覚兼日記）
- 314 三月廿一日 五井松平弥三郎殿舞ニ被越候。（家忠日記）
- 315 四月十九日 舞々勘大夫こし候。煩気にて相候はず候。舞も初計舞候。（同右）
- 316 六月十一日 舞々与三越候。かまだ、かまたり、堀川夜うち以上三番。（同右）
- 317 七月十一日 会下へ舞々あふみよりこし候て聞こし候。（同右）
- 318 七月十六日 舞々与三越候。（同右）
- 天正十五年
- 319 五月八日 越前幸鶴舞々子越候てゑぼしおり、かげきよ、くわんじんちやう舞候。（同右）
- 320 五月九日 会下ニ舞候。しだ、わだぎかもり、ふしみときわ。（同右）
- 321 六月廿九日 舞々勘大夫越候。八嶋舞候。（同右）
- 322 七月一日 会下へふる舞にて越候。勘大夫舞候。十番切。（同右）
- 323 八月六日 舞々与三越舞。（同右）
- 天正十六年
- 324 閏五月五日 越前幸鶴舞々こし候て兵庫、おいさがし、あつもり有。（同右）
- 325 七月□日 巳刻に森勘八殿へ御招待……舞有之。大職冠一番幸若小八郎。小八郎幸若ニ御太刀五百疋、同座ノ衆へ千疋宛被遣候。（毛利輝元上洛日記）
- 326 八月十四日 午刻ニ近江中納言殿へ茶湯ニ御出候。舞有之。幸若ノ大夫へ御太刀折紙被遣候。（同右）
- 327 八月廿五日 未刻ニ幸若三郎弟子参候テ舞一フシ申候。（同右）
- 328 九月六日 東条舞々こし候。（家忠日記）
- 329 九月廿一日 小久舞々こし舞候。たいしよくわん、くわんじんちやう、四国落、已上三番。（同右）
- 330 九月廿二日 舞々帰候。（同右）

天正十七年

331 四月廿三日 舞々々三こし候て、ゑぼしおり、十番ぎり舞候。(同右)

332 六月八日 竹のや備後所ニふる舞候。幸鶴舞々こし候。大しよくわん、おいさがし二番舞候。(同右)

天正十八年

333 正月五日 さくら町まいりてせんずまんざい申。みなみの御庭にてきのふのごとくはやしまいらす。けふは御さか月まいらず。おとこたち御まいり。雨ふりてくじやくのまにてしうげんまふ。(御湯殿の上の日記)

334 六月五日 まい舞出かたぎぬ遣候。中山同前也。(晴豊記)

335 七月廿八日 めいじんのまいまふものまいりて、しゆこうにてまふ。おとこたちめして御まいり、女中みなく御ときなり。ながはしにてそろくこしらへてみなくしゆこうにてまいる。まいまふたる物に、十でうしぐら一たんたぶ。(御湯殿の上の日記)

天正十九年

336 十一月十一日 江戸より舞々勘大夫越候。(家忠日記)

337 十二月十二日 舞候。たい所くわん、景清、こしこへ三番。福松さま衆きかれ候。(同右)

338 十一月十五日 会下へ参候。勘大夫帰候。(同右)

天正二十年(文禄元年)

339 三月五日 江戸大納言殿へ罷向、酒有之。……夕塗已後幸若三人罷向。舞、新曲、夜討會我等有之。戌刻二帰了。

文禄二年

340 四月十六日 舞々々三被越候。親子三人こし候。(言経卿記)

341 四月十七日 与三、兵庫、おひさがし舞候。又夜入夜うちそが。(家忠日記)

342 四月十八日 舞々飯沼迄帰候。五十疋、むす子ニはおり出候。(同右)

343 八月廿九日 江戸舞々勘大夫越候。(同右)

344 九月一日 勘大夫、たいしよくわん、十番ぎり二番舞候。(同右)

345 閏九月十四日 江戸女舞々越候。(同右)

346 閏九月十五日 会下ニふる舞ニて越候。女舞々こし候て舞候。ふしみときわ、芳野落、持氏三番。(同右)

文禄三年

347 十月廿九日 舞之大夫高若——以上五人来了。舞ニ番イブキマツ等有之、聞了。(言経卿記)

348 十一月一日 江戸亜相へ礼ニ罷向了。……高若来了。和田酒盛舞之。(同右)

349 五月廿三日 石河日向守へ罷向対顔了。……舞内野合戦有之。(同右)

文禄五年(慶長元年)

350 十二月十七日 其後太閤御酌公家衆御盆被下。舞台ニテ静之

舞有之。太閤并家康各被遊之云々（孝亮宿禰記抄出）

慶長二年

351 正月十五日 次内府へ罷向了。対顔了。カウ若舞有之、半ニ罷向、タイナイサガシ也。（言経卿記）

352 四月十日 帰程到江戸内府。無外人、聴舞。（鹿苑日録）

慶長三年

353 十二月廿四日 伏見へ罷向了。……東鏡読之、次舞 満仲一番有之、幸若也。（言経卿記）

慶長四年

354 六月廿三日 齋之時座当衆十二人来。……舞之太夫一人アリ。是モ一声、十足遣。各々点頭シテ退出。（鹿苑日録）

355 十二月廿六日 禁中黒戸庭ニテ舞有之ニ番次能有之。（言経卿記）

慶長五年

356 三月十八日 辰刻ニ赴閑室西堂茶、則鹿苑院也。……茶三服五人充ニ喫之。其後大頭舞ヲマウ。十番切。マイ過テウドン

スイ物……。（鹿苑日録）

357 四月十一日 伶人甲斐守ニ舞之本三番借用了。（言経卿記）

358 六月十日 甲斐守へ舞本ニ番返了。（同右）

359 十一月十四日 内府へ冷同道罷向了。雑談了。次カウ若九人同被罷向了。舞有之、アタカ、カゲキヨ、十番切等有之。（同右）

慶長六年

360 十一月廿六日 紹高所へ振舞ニ参。舞有之、其後連歌百韻有

之。（北野社家日記）

慶長七年

361 七月廿八日 客僧拆鉢仁来。予対顔シテ見之。則住吉之千代松也。予亦不堪驚愕。太所官、胎内サガシニ番舞也。則右之欲去時、留袂閑話。冷飯ニテ又進酒。千代松太夫ニハ扇子式

本孔方十足遣テ返之。（鹿苑日録）

362 八月廿八日 今晨丘首座、宗徳、定齋。舞マイノ常徳亦来、

同喫齋。元叔ニ番唱之。一番ニ高館、二番ニトキワ。終日閑話。連蔵主亦聴聞ニ来。（同右）

慶長八年

363 五月廿五日 齋了、十次郎ト云々マイマイ来。（同右）

364 八月十九日 舞四番。大織冠、笛ノウヘ、満仲、高館、祝言ト……笠屋舞ナリ。（時慶卿記）

○女あんの御所へう大弁申さたにててかさ大ゆうまいりてま

いまふ。（御湯殿の上の日記）

慶長九年

365 五月一日 香若舞令聴聞。（慶長日伴録）

慶長十年

366 十月二日 女院ヨリ、明日舞ヲカウ参候間可参候由廻文有之。（言経卿記）

367 十月四日 女院御所ニ舞アリ。香若ガ子兄弟十四歳ト十歳ト奇妙也。露払ト後祝言。夢大庭ガ合ル事アリ。中ハ矢島、鞍

馬出、勅進帳、腰越、土佐正尊以上巳刻初未刻ニ果。少納言局ニテ各食アリ。（時慶卿記）

○女院へ舞各々参了。予早出了。

(言経卿記)

○女院参。香若大夫舞有之。入夜退出。

(慶長日件録)

慶長十二年

368 五月十八日 於堺マイ舞、一人座頭リ半斎ト云者也、一人ハ男也。継信一番、シダ一番。

(鹿苑日録)

369 五月廿五日 舞マイ、座頭来。常明勾当一人、但常ニ来仁也。

舞マイ十二郎ト云々。

(同右)

慶長十五年

370 十一月十九日 舞三番、十番切、大職冠、高館令所望了。

(舜旧記)

慶長十六年

371 十二月十二日 今夜幸若弥次郎大夫被召出有舞曲。

(駿府記)

慶長十八年

372 五月六日 香若舞御所望、初祝一口、又大職冠ノ端計ニテ止之。入鹿御所望ニテ舞一番。

(時慶卿記)

○幸若八郎九郎大夫召御前舞曲有之。

(駿府記)

373 五月七日 文殊院振舞、墨介舞。大夫ニ帷一重、脇ツレニ各

同一被下之。終日振舞也。

(義演准后日記)

374 九月五日 シュンキクト云座頭来、舞ヲマハセ聞也。

(舜旧記)

375 十二月一日 同日舞之黒助上ル。

(本光国師日記)

慶長十九年

376 四月一日 幸若有舞曲云々。

(駿府記)

377 六月一日 早朝……幸若大夫舞曲高館、伊吹落

(同右)

378 七月十日 今日有幸若舞曲魯則御暇被下。

(同右)

379 九月十五日 今日幸若小八郎從江戸参府。於御前舞曲鳥帽子折云々。

(同右)

380 九月十八日 今日遠州可睡宗珊出御前、曹洞宗弘法御雜譚。其後幸若舞曲信田云々。

(同右)

381 九月廿日 幸若小八郎舞曲文竟。

(同右)

慶長二十年

382 七月五日 幸若弥次郎、同八郎、同小八郎舞曲被仰付。鳥帽

(同右)

子折弥次和田寛九郎俊寛小八

〔附載〕曲名一覽

入鹿(鎌足) 280 298 316 347 372

大織冠(大職冠・太職官・太所官) 219 237 268 285 295 298 304 325 329 332 337

344 361 364 370 372

百合者大臣(ゆり若) 215 頼若太郎 222

信田(志田・しだ) 216 266 276 320 368 380

満仲(多田満仲・まんぢう) 166 211 245 265 283 353 364

鎌田 265 316 おさだ 244

伊吹落(イブキヲロシ) 347 377

築島(兵庫の築島・兵庫) 210 244 264 324 341

俊寛(硫黄ガ島) 382

文竟 381

(追加)

元龜二年

四月十三日 於極楽坊勸進ノ女舞狂言在之。人別一升ッ。

(多聞院日記)

四月十四日 雨下舞無之。

(同右)

四月十五日 舞在之。見物者数多之。

(同右)

四月十六日 舞在之。靈供二坏備之。

(同右)

四月十七日 舞在之。日中後陽公来語了。

(同右)

四月十八日 舞在之。天气快然、両社参了

(同右)

四月十九日 舞今日迄也。合六ヶ日在之。

(同右)

元龜三年

閏正月廿二日 去十九日ヨリ西大寺奥院ニテ千部経在之。上葺

勸進ノ用久世舞狂言在之云々。

(同右)

天正六年

三月朔日 於極楽坊女舞在。花盛也。

(同右)

三月五日 去朔日ヨリ於極楽坊女ノ久世舞在之。群集也云々。

(同右)

四月七日 於紀寺天王女舞在之。

(同右)

天正八年

四月十三日 極楽坊ニテ女舞在之。

(同右)

天正十年

五月八日 於若宮久世舞在之。京ノムカデヤ上手也云々。

(同右)

天正十二年

正月廿四日 出仕如常。……終日御酒宴也。乱舞等如常。辛苦
舞など申候。(上井覚兼日記)

十月三日 終日乱舞共也。……石原治部右衛門尉狂言舞共申
候。幸若与十郎一曲など申候。(同右)